

## 日本の心と禅を追及して30年

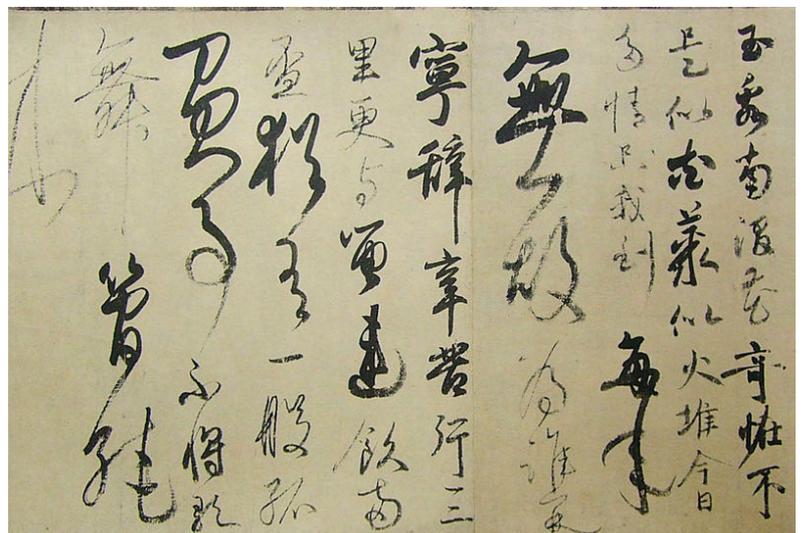
(その2)

ブライアン・パークガフニ  
筆記 藤川 卓爾 (S42卒)

### (5) 日本人と日本語

- ・川端 康成が「日本では意味が暗示される」といった。買物である物を求めたら、「一寸」といわれた。日本人の婉曲話法である。長崎市長の通訳で「よろしく」を訳すのに苦労した。「これから二つの都市の友好関係を発展させたい」と訳した。
- ・日本に来るとき、「さよなら」と「さとり」の二つだけ知っていた。「さよなら」は Good bye とは本質的に違う。Good bye は Good luck の意味であるが、「さよなら」は「左様であれば……」で肝心のところを表現していない。
- ・川端 康成は「いってしまうと却って真心が伝わらない」という。俳句は17文字で不十分な表現の仕方をする。仏教も同じ。欧米ではいわないと伝わらない。Word という言葉には約束という意味もある。
- ・「今日は」もそのあとに「お元気ですか」が続くのを、いわないかたちである。英語で Today とだけいったのでは何も伝わらない。
- ・先の件で、老師が「おい脚立を持って来い」といったのでは師弟ではない。
- ・私の妻は日本人で八女(福岡県)の出身。八女から一人の女性を貰ったから七女になった。テレビを見ていてある女優の名前が思い出せなくて、「この人はあの人かな」といったら、妻が「違う」といった。これも夫婦が20年暮らすうちに分かる。キザだが「愛情」である。
- ・日本ではいちいち本質をいわない。「村」や「禅」の影響 日本  
日本の社会の特長で素晴らしい。

写真、図表等は、本文と関係のないイラストです。



残念なのは、若い人がこういうことを分かっていない。かといって欧米流のやり方も身につけていない。これからは両方を大切に教育をしなければならない。

## (6) 日本料理

- ・料理も日本文化の窓である。「豆腐」は最初プリンと思った。「ざるそば」も食べ方が分からず、たれをかけたらざるからもれてズボンが汚れた。「刺身」も先ず野菜をと思い、山葵を枝豆を摺り下ろしたものと思って丸ごと口に入れた。
- ・大きな感激は「醤油」である。生の魚を「醤油」につけたら「うまい」と思った。人は魚のことはいうが、誰一人「醤油」のことは何もいわない。不可欠なものなのに評価されていない。逆に、最も大切なものだから評価されていない。ボランティア精神を液状化したものが「醤油」である。
- ・人間が幸せを感じるのは人のために役に立ったとき。英語のWorkのニュアンスは労働。一方、「仕事」は仕えること。「ご馳走様」は英語にはない。あってもほめ言葉(この料理はおいしいとの)。日本語の「ご馳走様」は感謝の言葉。
- ・「お袋の味」は母の愛情。子供達は「美食」には不自由していないが、「ご馳走」が不足している。



## (7) 再び日本語

- ・「結婚していますか」と聞かれたので、「独身です」と答え、同じ質問をしたら、「はあ、一応」という答えが返ってきた。YesかNoかしかないとこに、真ん中のグレーゾーンがあった。これは「思いやり」のぼかしで、「独身の貴方がうらやましがらうような結婚はしてない」という意味であった。
- ・日本人をほめると「いいえ」という。「貴方に自慢するようなものではない」という意味である。トーマス・グラバーの曾孫の通訳をしたとき、ミス長崎(活水の学生)が同行していた。グラバー氏が関西の三菱関係の人の家で何かをほめたら「いいえ」といわれた。それに対して「謙遜」の説明をしたら、ミス長崎が「若い人は違う」といった。その直後にグラバー氏が「貴方はきれい」といったら、ミス長崎は「いいえ」といった。
- ・好きな言葉に「実るほど頭(こうべ)を垂れる稲穂かな」がある。
- ・また、剣道に関するテレビ番組で、「打たれると感謝、打つと反省」。通常の考えと反対。「一本とったと傲慢になるな、打たれたら自分の弱いところを

教えてもらったと感謝せよ」の意味。

- ・ 不思議な日本語に「いい加減にきなさい」がある。いいバランス 英語にはない言葉。About にきなさい 仏教とも関係する。「中道」 釈尊は6年間にわたり体をいじめる修行をしたが、それを止めて牛乳を飲んで悟りを開いた。靴は小さすぎても大きすぎてもダメ このことを指導する仏教は世界の中でも目立っている。
- ・ 駅の自動精算機はカナダや米国にはない。 「人は間違ふことがある」(出発駅で切符を買い間違えることに対して、それを許容している)
- ・ 禅は座禅が修行 私には試練であった。結架俯座しか認められない。1日20時間、ただし、先輩が弟子の健康の管理をしている。
- ・ 日本語には「腹」に関するものが多い。「ハラキリ」、なぜ腹を切るのか。「腹が立つ」、「腹がすわる」、「腹芸」、「腹を割って話をする」、「太っ腹」=寛大。
- ・ 禅の「公案」に「隻手音声」がある。片手には音がない 答が不十分であれば、師匠に鈴を振られる。これが「振られる」の語源。
- ・ 集中する心(胆田) 無為「遊び三昧」。「三昧」とは「無念無想」の集中。例えばコンサートでは言葉は不要 これが「三昧」で没頭すること。自分の好きなこと、没頭できることをしているとき 幸せ。

(つづく)

## —— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

**また、原稿が切れてきました。投稿、お願い致します。**

### 【要領】

宛先は京機会の e-mail : [jimukyoku@keikikai.jp](mailto:jimukyoku@keikikai.jp) です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。 宜しくお願い致します。

写真を送ってこられる際、\*.jpg ファイルをPDF化して送ってくる事は止めてくださいますよう、お願い申し上げます。 ファイルサイズの縮小の役には立ちませんし、\*.jpg そのままの方が遙かに処理しやすいのです。

# 平成24年度 九州支部秋の行事のご報告

九州支部 千々木亨（S54卒）

去る、10月27日、28日に平成24年度 九州支部の秋の行事を行いました。28日には西日本旅客鉄道新幹線管理本部博多総合車両所にて見学会と総会を、又、28日には九州鉄道記念館と関門海峡見学を行いましたので報告します。見学会にはご家族の方を含め総勢42名の方々にご参加頂き、九州支部としては過去最大の行事となりました。

博多総合車両所見学会では 見学前に西日本旅客鉄道の新幹線管理本部副部長兼福岡支社長の田仲文郎様（S55年卒）に博多総合車両所の紹介と整備体制の概要につきご講演頂きました。新幹線は一日2000km走る為、10ヶ月も走ると走行



距離は60万kmにも及び、その度に台車を交換するそうです。新幹線はのぞみの場合で16両32台の台車があり、これらの台車をすべてレールに沿って正確に効率的に走らせる必要がありますが、そのため車輪にはレールとの接触面には微妙な勾配が付けてあり綿密に管理されているそうです。その他、当日見られない工場内の整備風景もプロジェクターで多数ご紹介頂きました。

工場見学では、まず九州新幹線のみずほの車両の内部を見学しました。運転席は飛行機のコックピットよりはるかに簡素で電子化されていました。車掌放送の体験もさせて頂きました。その後、整備工場内を見学しました。台車の組み立てラインや点検設備、ブレーキの構造などを間近に見学出来ました。車両点検場の見学では、鉄道好きの参加者ばかりで質問が絶えず、すっかり時間をオーバーしてしまいました。



支部総会では、相馬支部長と松久会長代行のご挨拶に続き、清水会計から平成24年度の間会計報告があり承認されました。大学を代表し井出亜里氏(S53卒)からは、桂キャンパスへの移行等の大学の近況報告を、又、千々木副支部長からは九州支部の昨秋の行事と今年春の長崎春季総会の活動報告がありました。

役員改選を行い、支部長に千々木亨氏(S54卒)、事務局長に角知則氏(S55卒)、事務局次長に入船佳津一氏(S60卒)、新幹事に田仲文郎氏(S55卒)、保木本達也氏(H1卒)が選任されました。新支部長からは、「最果ての最小支部である九州支部の大自然と近代化産業遺産に恵まれた特性を活かし、非日常の体験をとおして会員が楽しんで頂ける企画をどんどん提案したい。」との挨拶がありました。

その後博多駅前へ移動し、駅前の海鮮居酒屋で懇親会を行いました。当日獲ったばかりのイカやヒラメの活き作りなど新鮮な玄界灘の海産物に舌鼓を打ちました。さらに、鹿児島イモ焼酎の蒸留時のごく初期にのみ採取出来る45度の高濃度極上焼酎(はなたれ)を極低温冷蔵して会場に持込み、皆で少しずつ賞味しました。最後はいつものように、琵琶湖周航の歌で締めくくりました。

28日のオプションツアーでは北九州市門司港にある九州鉄道記念館を訪ねました。九州で活躍した蒸気機関車や電気機関車、珍しい電車の寝台車なども展示されておりました。鹿児島本線の列車シミュレーターで運転士の模擬体験も出来ました。

その後トロッコ列車で関門海峡めかり駅へ移動し、めかり絶景バスにのって壇ノ浦や関門海峡周辺を見学しました。徒歩組、列車組と別れ、思い思いに関門海峡と門司港を散策しました。徒歩組は関門人道トンネルも見学してきました。正午過ぎには渡船で下関側の唐戸市場へ移動し、ふぐの専門問屋で卸したてのふぐの刺身を堪能しました。唐戸市場の中では普通ではお目にかかれない鯨や高級魚クエの寿司も味わいました。快晴にも恵まれ、美しい海峡の風景と歴史、海の幸を皆で楽しみました。



黒船来航、太平洋戦争直前の世界。日本には今までもむつかしい状況がありました。むつかしさの原因は外より、むしろ、内にありました。今、同様のむつかしい状況に、日本は追い詰められつつあるのかもしれませんが。前者は明治維新、後者は敗戦そして復興、と、長い目で見れば、あるいは現在を良しとするならば、日本国民にとって良い状況に解決されたのかもしれませんが。

この写真は、明治維新に向けて、高杉晋作・木戸孝允・西郷隆盛・大久保利通・伊藤博文・大村益次郎・山県有朋・井上馨・坂本竜馬らや七卿落の公卿三条実美らが会談した机です。

今の日本も、憂国の士が何かをすべきでしょう。



(山口・湯田温泉・松田屋の東屋)

しかし、地球が小さくなりすぎ、日本が独自で動けない、あるいは、動いてもどうしようもない状況があります。現在の世界は、昔と異なる環境です。ダーウインの進化論の教えるところは、優秀な種が生き残るのではなく、環境に適合できた種が生き残るのです。

人の行動のすべての根源的な motive force は、広い意味での慾望の充足です。宗教や倫理・道徳も、それが精神的慾望の充足をもたらす範囲においてのみ有効です。一方、人間は、あるいは、万物は、現状からの変化に対して抵抗します。これは殆ど宇宙の法と思われるのです。その現実が無理にもたらされたものであってもです。すると、日本は、世界は、どのような形で安定化するのでしょうか。少なくとも以前の状態とは同じにはならないのに違いありません。しかし、全く違ったものになり安定化するためのインフラの構築整備には大きなエネルギーと長い時間が必要でしょう。 エントロピー (Inhaltsverhaeltnis) は非減少ですので、この秩序化には不用に増加したエントロピーたる混沌の捨て場が必要です。 嗚呼 ???

## 野次馬話 第59話 「深くお詫び申します」

S43 卒 遠藤 照男

このところ、事件の渦中の人物、或いは関係者全員が揃って、深々と謝罪する場面を目にする。頭を下けている時間は5～10秒、複数なら必ず全員一致している。画一的な行動には演出臭が漂い真の謝罪が感じられない。偽メール事件の代議士然り、不祥事を起こした電力会社、病院の経営者や会社幹部然りである。新聞・TV記者が、正義の視聴者が「頭の下げ方が短い！」と批難するから、頭下げを当事者にとって不可欠な儀式にしてしまったのである。

謝罪の心の表わし方は様々であり強いられたものであってはならない筈だが、事件の責任者や議員の謝罪会見など、無理に陳謝させられて頭を下げさせられた雰囲気しか感じられず、十数秒間頭を下げるプレーをしていたに過ぎない。また、集団で謝罪を行う際に同じ時間頭を下げているなどありえないのだが、事前に演出者から教えられるか打合せをしてリハーサルもしていたのだろう。揃っていない場合は、「達磨さんが・・・」\* の手法を教わらなかったのが若干のずれが生じた、と勘繰っている。

深～く頭を下げ続けるような形式張った頭下げではないので悪い感じは持たなかったのだが、実はとんでもない食わせ者だった例もある。弾みでスピード違反やっと思い、いやー済みません、という感じで出てきたホテルチェーンの社長が、ひょうひょうと頭を下げて謝罪していたので悪い感じは持たなかったのだが、実は全国のホテル建設に当たっての設置義務・認可条件違反・違法改修等の差配を抜け抜けと行っていた例である。

**教訓： 何事も表層で判断せず一歩おいてみる我が姿勢を堅持しなければ、誤る。**

\* 時計なしに一秒間を正確に知る方法を披露しておこう。極限の速さで「達磨さんが転んだ、達磨さんが転んだ、達磨さんが転んだ・・・」を、口の中で繰り返し、繰り返した回数を勘定してみたい。1秒間に5～6回繰り返せるだろう。これを知っておけば、10秒でも1分でも時間を知ることが出来る。極限の速さでやるのはバラツキを排除するために必要な条件である。12345678、22345678、32345678、42345678・・・と区切るやり方がより正確で、丁度1秒になる末尾の数値が6か7か8かを予め知り訓練しておけばそのまま秒針代りになり、周囲の人を驚かすことが出来るのは必定である。

## 京機 23 年会(昭和 23 年卒) 平成 24 年度同窓会報告

「京機 23 年会」の平成 24 年度の同窓会が平成 24 年 11 月 11 日昨年と同じ JR 大阪駅構内のグランヴィアホテル大阪で行われました。出席者は 8 名でした。(写真前列左から中塚、高橋、井宮、山田、後列左から西岡、尾谷、岐美、江本) 18 人に案内を出して、伊藤制儀、奥山宏、山本正の三君が永眠、また中村裕一君も鬼籍に入られました。



今回は病から離れた話題での歓談をと思ったが、やはり各人経験している健康問題が中心話題となった。中でも 0 君の気胸の話は参考になったし、癌対応の経験談も関心を引いた。1 君の外国人留学生達と歓談している時に、ネパールからの留学生が日本語は不思議な言葉で、親を切って何故“親切”という単語になるのかこの関連に不思議を感じると言われ答えに困った話には、改めて興味を覚えた。3 時間の飲食も飲は細々になりつつあるが、年に一回の同窓会はやはり昔を思い出させる楽しいひと時で、最近の政治話題が結論を得られないままに閉会となった。

なお現在同窓会のご案内を差し上げていない方でもご参加頂ける方は西岡 (TEL : 075-462-9247) までお電話頂ければ案内はがきをお送りします。大歓迎です。 来年は平成 25 年 11 月 11 日(月曜日)に同じ場所で開催します。

(西岡邦夫記)

## 京機私塾 へのお誘い

京機会関西支部京機カフェでは「若手による若手のための勉強会」として、「京機私塾」を立ち上げる運びとなりましたのでご案内いたします。40歳以下(U-40)の若手の方の多数のご参加をお待ちしています。他支部会員の皆様のご参加も歓迎いたします。また諸先輩方におかれましては、お近くの京機会後輩にご参加のお声かけしていただきたく、よろしくお願い申し上げます。

### <京機私塾(U-40)の目指すもの>

技術者・社会人として生き抜くために身に着けるべき「素養」は、技術以外にも、マネジメント力、リーダーシップ、仕事の進め方、企画力、メンタル、家庭と仕事のバランス・・・など多岐にわたります。京機私塾(U-40)では今後30年を活躍していく上で、そういった「素養」を京機会メンバーと身に付けていく場、各位の抱えている課題の「答えのヒント」を見つけ出すための利害を超えた交流の場、を目指しております。まずは気軽にご参加下さい！

[http://keikikai.jp/shibu/kansai/cafe/cafe\\_wakate.html](http://keikikai.jp/shibu/kansai/cafe/cafe_wakate.html)

日時：平成24年12月1日(土)14:30～17:00

<併催> 10:30～14:00 箕面の滝 観光企画

場所：箕面文化・交流センター(阪急箕面駅 徒歩1分)

【MAP】<http://www.minoh-wave.net/bunka/map/map.html>

プログラム： 季節が良いので今回は観光企画も実施いたします！

<観光の部> ご家族で参加可能です

10:30 阪急箕面駅前 集合 (観光企画参加者)

11:30 箕面の滝の前で持参弁当で昼食 + 記念撮影

～14:00 自由時間(紅葉狩り、昆虫館見学、名物「もみじ天ぷら」をお楽しみください)

<京機私塾の部> ご夫婦での参加も可能です

14:15 阪急箕面駅前 集合 会場まで徒歩1分：

箕面文化・交流センター(地下1F 多目的ルーム2)

14:30～講演会 「人材現場のプロからみた『あなたの人材価値』(仮題)」

講師：パソナ GM 小倉寿雄 様

16:00～17:00 ディスカッション

・今後、学びたい「素養」についてアイデア出し、意見交換

17:45 懇親会(参加希望者にて開催。梅田周辺を予定)

会費：講演会のみ：1,000円/人 講演会・懇親会費参加：4000円/人

申込方法：京機会HP <http://www.keikikai.jp/cgi-bin/index.cgi?D305>

申込締切：11月29日(木)

幹事：白土 浩司

## 1. 「ものづくり」から「もの・ことづくり」へ変わろう

日経ビジネスonline

田中芳夫

### 1-1 日本品質なら売れるという発想を捨てよ (第1回)

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/opinion/20121018/238229/?P=1>

私は、日本のものづくり産業がこれから進む方向として、5年ほど前から「ことづくり」に向かうべきだと主張してきました。ことづくりとは、生み出したものによってでき上がる新たな生活や社会の様子まで、つくりあげていくことを指します。こうした新たなものづくりを、私は「もの・ことづくり」と呼んでいます。ことづくりの例として、スマートグリッドが挙げられます。電力がかかわる、あらゆる場面を最適にすることで、街全体の電力の消費を抑えようという試みです。そこでは、太陽光発電や風力発電、電力網、住宅や工場などの建物、電気自動車、家電など、それぞれのシステムの中を最適にするだけでなく、それぞれのシステム同士を連携させることで、はじめて実現できることです。このように、ものづくりにとどまらず、ものを使って今までにない社会システムまでつくりあげることが、ことづくりです。

### 1-2 重要なのは仕組みづくり (第2回)

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/opinion/20121024/238559/?P=1>

第1回で説明したように、これまで日本が追求してきた価値観だけに固執したものづくりでは通用しなくなってきました。それはなぜか。その理由を探ってみましょう。まず、世界の経済状況です。これまでの主戦場だった先進国の市場だけに頼っていては、もはや市場の拡大が望めなくなりつつあります。どの分野でも、先進国の市場の伸びは限られ、新興国の市場の伸びにしか期待できません。

## 2. 新興国市場で成功するための実践講座

日経ビジネスonline

### 2-1 「日本の常識にこだわると売れるものも売れなくなる」

第7回：“買い場”目線で考える販促術

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20121015/238076/?P=1>

これまで、海外に進出するメーカーは、“日本製”の売りである品質や性能の高さを生かして、富裕層向けに高価格の商品を売り込むことが多かった。しかし、マダムが東南アジアで圧倒的なシェアを取るに至った戦略は、買いやすい価格で人口のボリュームゾーンにアプローチし、現地の消費者に近づくといいやり方だった。その基本姿勢を表す象徴的な言葉が「何事も生活者の立場になって、お役立ちをする目線に立って考える」だ。どのように売るかで

はなく、どのように買われるかを見極めて生活者視点で“買い場”を作ってきた。「日本でうまくいったから」というメーカー側の理屈は通用しない。体験談から、品揃えの考え方や宣伝活動などに関しても、新興国マーケットならではの難しさがあり、面白さがあることが伝わってくる。

## 2 - 2 「何でも平等にするとエリートがやる気を失う」

第8回：ローカル人材の採り方、育て方

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20121022/238395/?P=1>

海外における現地スタッフの雇用は、日本のそれとは別の難しさと重要性をはらんでいる。文化や人種の違い、働くことに対する意識のズレ、日本人社員とのバランスなど、様々なことを意識しながら、適材適所の人材を採用し配置をしなければならないからだ。採用し、教育し、優秀な人材は幹部候補生として育成する。それが他国の軒先を借りて商売をさせてもらっている外資としての務めであり、「お役立ち」をモットーとするマンダムが現地法人の経営において非常に大切にしているポイントでもある。

## 2 - 3 「日本の常識がどこでも通用すると思いついてはいけない」

第9回：現地社会と共に歩む経営作法

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20121022/238397/?P=1>

ひと昔前、日本メーカーがこぞってアジア進出を目指したのは、生産コストの削減が主な目的であった。しかし今は、新興国を大きな可能性を秘めたマーケットと捉え、現地の生活者に受け入れられる商品の開発を目指す企業が増えてきている。マンダムは、価格設定、原材料選び、品質向上、パッケージ刷新など様々なポイントから現地仕様の商品づくりに尽力し、その国の生活者が求める価値を提供してきた。さらに、政府、労働組合、業界団体、地元生活者らに寄り添うことで、長く現地で愛され続ける存在となった。

## 2 - 4 「自分達の勝ちパターンを腹に落としてから次の市場に出る」

第10回：事業規模の拡大に向けて～複数の国を統括するために～

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20121022/238398/?P=1>

海外進出を果たし、ある程度の業績を残せるようになれば、次は事業拡大についても計画しておきたいところだ。ただし、ひとくちに「拡大」といっても、マーケットとなる領域を広げると、特定地域におけるビジネスを深耕するのでは、考え方もアプローチ法も異なる。マンダムは、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシアなど異なる市場での成功を手がかりに「勝ちパターン」を分析し、国や民族が違ってても応用できることと、進出エリアや進出時期に応じて考え直さねばならないことを見極め、新興国でのブランド力に磨きをかけてきた。

### 3 . 産業構造の「スマイルカーブ」化が日本の「中流」ビジネスに淘汰・再編をもたらす!

DIAMONDOnline 伊藤元重

<http://diamond.jp/articles/-/26604>

国内経済の人口減少による成熟化、そしてアジアの成長による引力 (gravity : 連載第11回参照) の増大。これが日本経済の長期的なトレンドを決める重要な要因である。本連載はこれまで、アジアの拡大による日本経済の産業構造の変化について述べてきた。今後は、国内の少子高齢化の影響について考察することを予定している。今回は、こうした二つの要因の影響を、単純ではあるが示唆の多い形で整理した考え方「スマイルカーブ」について紹介したい。大きな変化にさらされている企業の環境を理解する上で、役に立つ見方だと思う。

### 4 . 日本経済に明日はあるのか、長期雇用は必ず雇用の安定につながるのか

日本型雇用慣行について考える (その2) 日経ビジネスonline 小峰隆夫

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/opinion/20121029/238715/?P=1>

日本型雇用慣行の議論を続けよう。日本経済の再生を考えていくと、いろいろなところで日本型雇用慣行が障害になっていることに気づく。したがって これを変えていくことが必要なのだが、多くの人はいこれを替えるつもりはない。むしろ続けてほしいと思っている。このギャップが非常に大きいという のが私の言いたいことだ。 このギャップを埋めるのは大変難しく、私自身はやや諦めかけているのだが、地道に説いていくしかないのであろう。前回は、なぜ日本型雇用慣行が強固に存続し続けているのかについて考え、多くの人がいこれを替えたがらないという実態を紹介した。今回からは、なぜ変えなければならないのかという問題点の方を考えることにしよう。

## 平成24年度京機会秋季大会・総会開催のご案内



本大会を下記により開催いたしますので、出席下さいますようご案内申し上げます。ご家族の参加も歓迎いたします。

日時：平成24年12月8日(土) 11:00～19:30

会場：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール、国際交流ホール 工学部物理系校舎

行事：

### 1. <特別企画> 研究室ポスター展示 11:00～14:00 (会場：工学部物理系校舎)

桂キャンパス移転を前に、一昨年好評いただきました研究室ポスター展をアンコール開催します。

### 2. 京機会総会 14:00～

### 3. さよなら吉田キャンパス「思い出の光景」 15:10～



100年を超える期間に亘り、皆様の青春時代の舞台となった吉田キャンパス・・・京都大学・京機会の愛蔵写真や皆様から寄せられた秘蔵写真を、映像化しご覧いただきます。上映後は、会場参加者全員での回顧座談会といたします。当日、ご出席の皆様からの当時の秘蔵・爆笑エピソードなどのご発言をお待ちしております。

### 4. 特別講演会 16:20～

「2012年 機械遺産認定 ウォシュレット 開発物語 ～ 日本トイレの進化 ～」

中村 久志 氏 (S56) TOTO (株)

1980年初代に誕生したウォシュレットG。昭和のトイレ事情やテレビCM「おしりだって洗ってほしい」の反響など当時の世相も交え、最新の環境配慮の面など、2012年日本機械学会 機械遺産に認定されるまでのウォシュレットの技術・歴史を映像を交え分かりやすくお話しいたします。



### 5. 桂キャンパスへの誘い 17:35～

桂キャンパスならびに機械系教室の最新情報をご紹介します。

### 6. 懇親会 18:00～

会場：京都大学百周年時計台記念館、国際交流ホール

会費：一般会員 4,000円 会員ご家族は無料

学生会員 1,000円 (11/28までの事前入金の場合、500円の特別優待が決定！)

- **ご家族の参加も歓迎いたします。** ご家族参加の場合は、大会参加申込時に、その旨ご回答下さい。
- 自由な服装でお越しください。
- **11月28日(水)までに、京機会HP (<http://www.keikikai.jp/>) からの参加申込をお願いします。** (但し、二重受付登録防止のため出欠回答はどちらか一方でお願いします。)

## 京機会・京機学生会SMILE 学生と先輩との交流会のお知らせ

### 学生会員諸君！

学生会員の多数の参加をお待ちしています。  
講演会以外の詳細情報は、京機会からのE-mailや  
物理系校舎ロビーポスターにて確認下さい。

日時：平成24年12月8日(土)

交流会：10:30～15:00

懇親会までは、上記講演会で楽しみ下さい！

懇親会：18:00～19:30

京機会秋季大会懇親会と合同開催です  
11/28までの申込みなら懇親会費は500円！

会場：京都大学百周年時計台記念館  
国際交流ホール・記念館ホール



### ～ 学生と先輩との交流会とは ～

本交流会は、学生が社会における「現実」を知る教育活動の一環として、1999年より実施しております。本会は、京機会会員である先輩から、在学生に対し、大学における勉強と実社会との仕事の関係、仕事のやりがい・心構えなどを話していただき、例年、学生の関心も大変高く、勉学の動機づけや将来の方向付けにも少なからず寄与しております。毎年、約100社の企業に参加いただき、各社からも好評をいただいております。

